



「新たなる第一歩」



酪農経営：

佐渡市小木 金子 めぐみ氏

私が酪農の道に飛び込んでから早くも14年目です。酪農の事なんか一つも解らない私が今まで続けてこれたのは、この仕事がどんな仕事よりも魅力があり、自分に最も似合った仕事だと知っているからです。14年目に入った今でも山ほど知らない事がありますがあまり気にしていません。何故なら、「目の前にいる牛達が健康に過ごせるように心がけ、おいしい牛乳を搾る。」これだけでも私にとっては難しい事で一杯一杯だからです。こんな調子なもんだから難しい専門用語など覚えられない余裕もなさそうです。しかし、去年、突然の世代交代。まだまだ未熟な主人と私はお父さんの指導の下で学んでいくつもりでした。それでも牛達はお腹が空けば泣き、餌を要求します。落ち込んでいる暇さえありませんでした。私は思いました。これまで言葉じゃなく、仕事の仕方、牛に対する情熱を働く姿で見せてくれたお父さんに感謝する思いを、これからの私達の働く姿で天国にいるお父さんを安心させて上げられます。何よりも恩返しになるんじゃないかと思っております。年内には新牛舎が完成する予定です。これからが私達にとって本当のスタート地点だと思っています。しかし、現在の酪農経営は飼料価格の高騰などにより安定した経営が難しくなっています。これからもきっと、多くの壁が私達の目の前に立ちはだかってくるでしょう。でも、負ける訳にはいきません。酪農は人にとっても地球にとっても、絶対なくてはならない存在なのだから・・・この仕事に誇りを持ち、牛、そして自然と共に生きて行きたい。私はこの文章を書いたことで、自分の意志を再確認し、新たな第一歩を踏み出す決心を固めました。

「牛と接して思うこと」



肉用牛経営：

長岡市中之島中条 田口 大輔氏

私は平成15年に就農して、4年目になりました。父の指導の下、現在100頭の黒毛和種の去勢を肥育しています。水稲との複合経営で、春と秋は大変忙しくなりますが、稲刈りが終わった水田から稲ワラを集める収集の時には、忙しさが極限状態です。

この作業が嫌で畜産を止めようと思ったこともありましたが、しかし、稲ワラも乾草も自給したものに比べて輸入品は品物が悪く、牛の状態や餌の食いつきが著しく悪くなり、粗飼料の自給はコスト面だけでなく枝肉成績にも直結することを痛感しました。近年では、天候にも恵まれて粗飼料自給率は100%です。稲ワラと河川敷、転作田を利用した乾草は、この飼料高の中では財産とも言える貴重な自給飼料です。就農当時は毎日の作業と繁忙期の忙しさに追われて、畜産に対するの価値や、この先も続けていく覚悟といったものがあまり持てずにいましたが、最近では自分に適した仕事だと思えるようになってきました。別に「牛が好きでたまらない」といったことでもありませんが、自分で選んだ素牛を約2年間かけて仕上げることにやりがいを感じますし、出荷成績を自分の目で見た上で、それを買参人の方々に直接評価してもらえることは、会社勤めしていた頃には感じられなかったものがあります。高く売れた時のことですが・・・。

今では、「牛を飼う」ということに慣れて目標を持てるようになりました。それは、「親父越え」です。私にとって、肥育名人である父は偉大な存在であると同時に、最大の壁でもあります。今は「田口の息子」ですが、近いうちに「私が新潟の田口です。」と堂々と言えるようになりたいと思っています。そのために日々の飼養管理を怠ることなく、誰にも文句のつけようがない最高の枝肉を作りたいと思います。